

鳥飼地域の道路・公共交通

【道路】

- ・鳥飼地域の東西には、府道大阪高槻線、市道新在家鳥飼中線、新在家鳥飼上線が、南北には大阪中央環状線、府道茨木寝屋川線、八尾茨木線等の幹線道路が通っており、その沿線に工場や倉庫が数多く立地する。
- ・大阪高槻線と大阪中央環状線が接続する一津屋交差点では、慢性的な渋滞が発生しており、大阪府内の主要渋滞箇所の1つとして選定されている。
- ・生活道路等の一般道路では、旧集落等において細街路が多く見られる。

【鉄道・軌道】

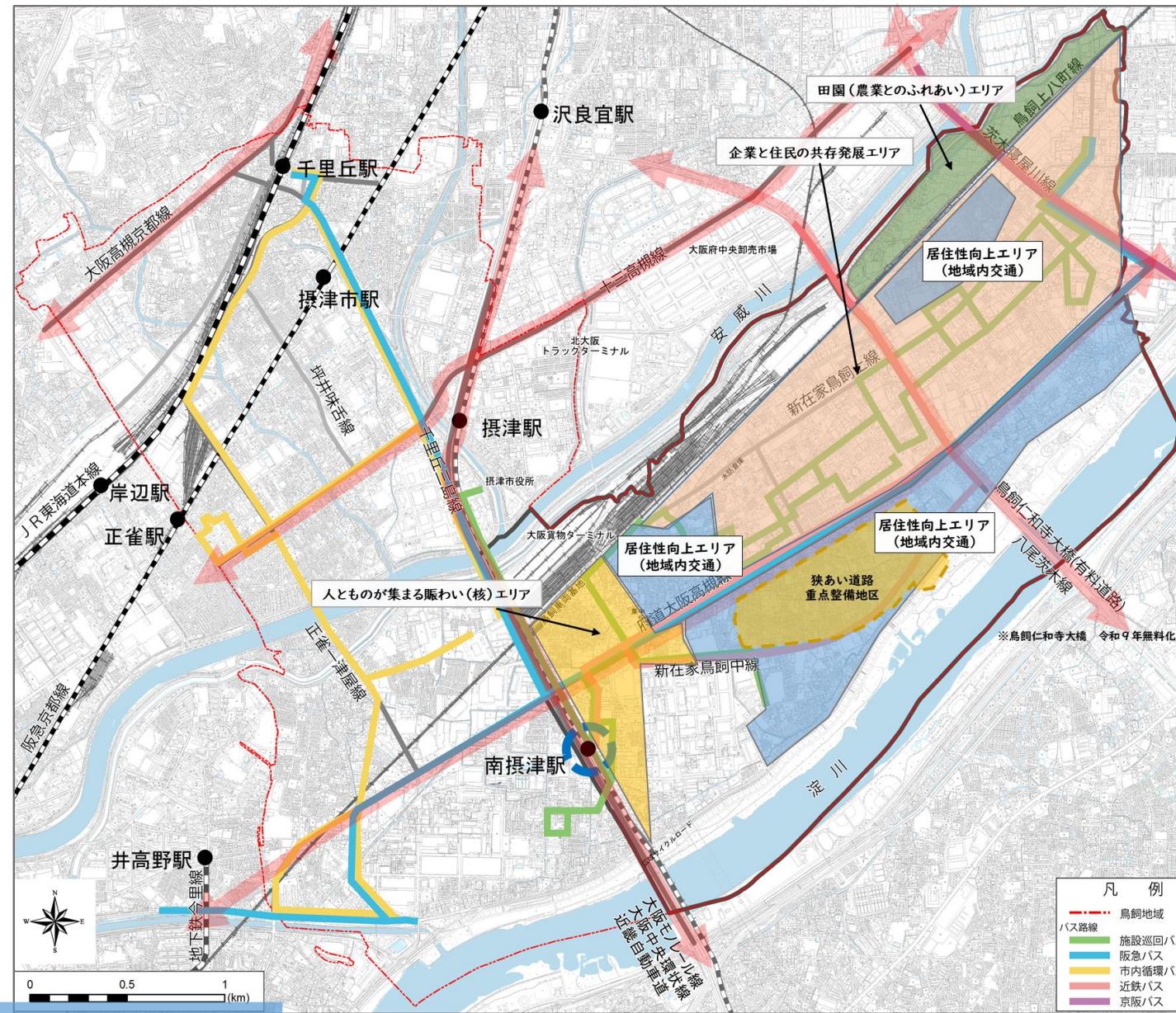
- ・市域にはJR東海道本線、阪急京都線と、中央部を南北方向を縦断する形で大阪モノレール線が通っており、他市域との広域的なネットワークを形成している。
- ・鳥飼地域に唯一ある鉄道駅のモノレール南摂津駅は、鳥飼地域の西部（東一津屋）に位置しているため、東部の住民にとっては遠く離れている印象。

【バス、タクシー等】

- ・市内を走るバス路線を示している。現在、鳥飼地域では、阪急バス(株)、近鉄バス(株)及び京阪バス(株)の3社の路線バスが運行されており、いずれも幹線道路を主要な運行ルートとなっている。
- ・これらの路線を補完する形で鳥飼地域の主な公共施設と市役所とをつなぐ公共施設巡回バス（定員数最大23名 座席数最大15席）が運行している。
- ・その他の交通手段として、タクシーの運行がある。

【交通手段特性】 ※参考資料（パーソントリップ調査）

- ・代表交通手段分担率（平成22年）は、自動車分担率が30%と最も多く、鉄道は22%、バスは1%と少ない。鳥飼地域においては、自動車が42%となっており他の地域に比べて自動車交通の利用が高い。
- ・高齢者の移動目的について、約5割が自由（買い物・通院等）となっており、移動距離が短いため自転車や徒歩での移動が多い。
- ・近隣市には大型商業施設が多数あり、休日に市外へ出かける住民が増えている。また、移動手段としては、その多くが自動車利用であると考えられる。



○ 現在、休日に自動車を利用した近隣市の大型商業施設への移動が見られ、高い水害リスクからは水害発災前に自動車を利用した広域避難が必要。市内の広域幹線道は、大型車の混入率が高く物流を中心とした通過交通が多いと想定され、慢性的な渋滞箇所もある。目的と対象を明確化した交通ネットワークの構築の再構築および効率的な自動車交通施策の立案が求められている。

➡ **公共交通の充実を図りつつ、通過交通と住民の交通を分離するなど住民の自動車利用の充実することで、円滑な地域交通の確保が必要**

○ 一方、自動車を持たない方や行動圏が地域内に収まっている方に対しては、

➡ **広域的な移動に対する公共交通の充実、地域内移動に対しては歩行空間や自転車利用空間の確保などのハード・ソフト対策が必要**

○ 公共交通を充実させるためには、地域（各エリア）の将来を見据えた上でニーズを的確に把握することが重要。

➡ **地域の声を聴いた上で、地域に合った交通手段を考えることが必要**

○ 鳥飼地域は、ほぼ全域が洪水被害想定区域であるため、

➡ **広域も含めた避難場所等を考慮した安全な避難経路の確保及び災害復興に向けた道路環境整備も必要**

※生活道路については市道が中心となっており、整備における役割は市が担う。